

# モルドバ月報

2022年9月〔モルドバの報道をもとに作成〕

令和4年10月1日 在モルドバ大使館

## 【主な出来事】

- 14日、谷合参議院議員一行がモルドバを訪問した。
- 19日及び25日、ショール党が大統領前で反政府デモを実施した。
- 26日、ガブリリツァ首相及びブディアンスキ財務相は安倍元総理の国葬儀出席のため訪日した。

## 1. 内政

### レオヴァ市長による新党の結成

6日、ブジョレアン・レオヴァ市長（2019年の地方選挙では、自由民主党からの出馬）が新党結成を公表した。右市長は、「地方自治体を発展させ結果を出してきた現実的な人物を奨励すべき。」と述べた。

### ショール党による反政府デモの開催

19日、ショール党は大統領府前で、サンドウ大統領の辞任と議会選挙の早期実施を求めてデモを行い、6500人が参加した。ツルカヌ・オルハイ県知事（ショール党の代表）はノンストップデモを呼びかけ、300人が大統領府前でテントで泊まり込みでデモを行った。

### ショール党による反政府デモの実施

25日、ショール党は大統領府前で、サンドウ大統領の辞任と議会選挙の早期実施を求めてデモを行い、5800～6000人が参加した。

## トランスニストリア関連

### テロ警戒レベル「イエロー」期間の延長

6日、テロ警戒レベルの「イエロー」期間が21日まで延長され、20日に10月6日まで再延長された。

## 2. 外政

### ポベスク外務・欧州統合相のノルウェー訪問

5日、ノルウェーを訪問したポベスク外務・欧州統合相はノルウェー外相とオスロで会談し、二国間案件、エネルギー問題、ノルウェーの対モルドバ支援、モルドバ・EU間対話、モルドバの国内改革等につき議論した。

### ガブリリツァ首相のルーマニア訪問

13日、ルーマニアを訪問したガブリリツァ首相はルーマニア首相とブカレストで会談し、二国間協力について議論した。ガブリリツァ首相は、モルドバの様々な危機への対応への支援、及びEU加盟に向けたルーマニアからの支援に謝意を表明し、エネルギー危機への援助と国境での交通の円滑化の必要性を訴えた。

### リトアニア外相及びアイルランド外相の当地訪問

15日、ポベスク外務・欧州統合相は、オデーサに向かう途上、当地を訪問したリトアニア外相及びアイルランド外相とキシナウで会談し、ポベスク外相は国内改革や汚職撲滅に向けて引き続きの努力を表明し、EU、リトアニア及びアイルランドにウクライナ危機の文脈での支援に感謝し、IEAEのザポリヅジャ原発訪問を歓迎した。また、両国と共にモルドバのEU加盟に向けて新たなイニシアティブを行うと発言した。

### ポベスク外相及びスプヌ・インフラ・地域開発相のオデーサ訪問

15日、ポベスク外相及びスプヌ・インフラ・地域開発相はオデーサを訪問し、ウクライナ外相、ルーマニア外相及びルーマニア・エネルギー相と会談した。会談後の記者会見では、ロシアによるウクライナ侵攻への非難、ウクライナ支援のための外交的努力の継続、モルドバとウクライナのEU加盟のための協働等について言及した。

### 外務・欧州統合省による駐モルドバ・ベラルーシ大使の召致

19日、ルカシェンコ・ベラルーシ大統領による「米国によってウクライナにおいて欧州とロシアの武力衝突が起きており、次はモルドバ、バルト三国、ポーランド、ルーマニアかもしれない。」という発言に対する説明を求める目的で、外務・欧州統合省はAnatolii Kalinin駐モルドバ・ベラルーシ大使を召致した。

- **サンドウ大統領による英国訪問**

19—20日、サンドウ大統領は英国女王エリザベス2世の葬儀出席のために訪英した。その際、ザハウィ政府関係担当相兼平等担当相と会談し、ウクライナ戦争の文脈での地域の安全保障、エネルギー、偽情報、司法改革、汚職対策の分野での政治協力について議論した。

- **サンドウ大統領及びポベスク外務・欧州統合相による国連総会出席**

21日、サンドウ大統領は国連総会でスピーチし、その中でEU加盟候補国ステータス獲得、ウクライナ戦争、トランスニストリア戦争、インフレとエネルギー危機、汚職等に言及した。マージンで、スロバキア大統領、フィンランド大統領、カナダ首相、フォン・デアライエン欧州委員長と会談した。

大統領と共に国連総会出席のためにNYを訪問したポベスク外相は、国連総会のマージンでギリシャ、セルビア、トルコ、ヨルダン、インド、アイスランド、オーストリアの外相、エジプト国際協力相、USAID関係者、米国議員等と会談した。

- **サンドウ大統領のドイツ訪問**

23日、サンドウ大統領は国連総会の帰路にドイツを訪問し、ショルツ独首相、独経済担当相、独議会外交委員会委員長、独ビジネス界代表等と会談を行った。ショルツ首相との会談では、地域の安全保障、ウクライナ戦争の影響、エネルギー危機、投資案件等について議論した。

- **外務・欧州統合省による露のウクライナ一部地域での住民投票に対する非難声明発出**

28日、外務・欧州統合省は露がヘルソン、ザポリジャ、ドネツク、ルハンスクで行った住民投票を国際法の基本原理に反するとして非難し、ウクライナの独立、主権、及び国際的に認知された国境内の領土一体性を支持する旨声明を発表した。

- **外務・欧州統合省による露のウクライナ一部地域併合に対する非難声明発出**

28日、外務・欧州統合省は露によるウクライナの占領地域の違法な併合を認めず、非難する旨の生命を発表した。

### **3. 経済**

- **2022年第二四半期労働力統計**

5日、国家統計局はモルドバにおける2022年第二四半期労働人口は90万300人で前年同期比3%増と公表した。前年同期比4.3%増の87万8,900人が雇用されている。労働者全体に占める割合は農業22.9%、工業14.8%、建設7.7%及びサービス55.1%。労働者のうち16.1%の労働者はインフォーマルセクターにおける雇用。失業者は2万1,600人、失業率2.4%。

- **新規発電所建設の意向**

7日、メルニク・インフラ大臣顧問は内閣の会議にて、モルドバにおける新規発電所建設に係るフィージビリティ調査を実施している旨述べた。同顧問によれば調査の期限は2023年末。ガブリリツァ首相は、我々が有する可能性を検討し、意思決定する必要があると述べ、スプヌ副首相兼インフラ・地域開発相も現政権の間に新規発電所建設を望んでいると自信を見せた。

- **議会、2022年国家予算修正法案を採択**

8日、議会はウクライナにおける戦争により影響を受けた人々や事業者を支援するため、2022年度の家計予算修正法案を採択した。修正により、収入を10%増の57.971十億レイ（2.95十億ドル）、支出を4.3%増の75.216十億レイ（3.85十億ドル）、財政赤字は11%減の17.245十億レイ（0.88十億ドル）となる。議会はさらに、社会保障費及び健康保険費の収入及び支出の増額を採択した。

- **2022年8月インフレ率対前年同期比34.29%**

9日、国家統計局は2022年8月の年間インフレ率は対前年同期比34.29%と発表した。内訳には食品39.93%増、非食品23.26%増、サービス45.25%増を含む。

2022年8月の2022年インフレ率（対2021年12月比）は22.93%。内訳には食品22.85%増、非食品16.7%増、サービス32.53%増を含む。

2022年8月のインフレ率の対前月比は0.89%。内訳には食品0.92%増、非食品0.27%増、サービス1.75%増を含む。中でも最大の影響はガス15.2%増を含む公共サービス費3.4%増。

- **経済自由度指数、モルドバ順位を4つ落とし69位**

10日、カナダのFraser Instituteが発表した2022年経済自由度指数によれば、モルドバは昨年より4つ順位を落とし、165カ国中69位であった。モルドバの平均点は10点中7.05点。モルドバの最上位項目は信用市場規制の34位、最下位項目は労働市場規制の118位。

- 国立銀行、基本金利を年21.5%で据え置くことを決定**  
 13日、国立銀行は基本金利を年21.5%で据え置く決定を含む金融政策を発表した。
- 2022年第2四半期及び上半期GDP**  
 15日、国家統計局は2022年第2四半期GDPが64.3十億レイ（3.29十億ドル）で対前年同期比0.9%減と発表した。2022年上半期GDPは120.6十億レイ（6.17十億ドル）で前年同期比同様。
- 2022年1～7月貿易統計**  
 15日、国家統計局は2022年1月～7月の輸出総額が2,692.7百万ドル、対前年同期比67%増と発表した。国産品の輸出が65%増加し、輸出全体の48%増に貢献した。主要輸出国はルーマニア28%、ウクライナ12%、トルコ9%等。同期間の輸入総額は5,112百万ドル、対前年同期比33%増。主要輸入国はルーマニア17%、ロシア14%、中国10%等。貿易赤字は2,482百万ドルで6.3%増。同期間の日本への輸出は2.4百万ドル、前年同期比26%増。日本からの輸入は38.5百万ドル、3%増。
- 企業及び経済成長基金創設予定**  
 20日、企業開発庁（ODA）による、中小企業開発のための企業及び経済成長基金創設の議論が開始された。同庁は、市場より30～40%金利の低い長期融資やその金利の一部の信用保証あるいは補助金の提供を計画している。基金は国家予算と外国援助で設立される予定。
- 2022年1月～8月海外送金、前年同期比5%増**  
 22日、国立銀行は、今年1～8月、海外からの送金が1,138百万ドル、前年同期比5%増と公表した。
- ガス料金27%値上げ**  
 23日、国家エネルギー規制庁は家庭向け天然ガスの料金を現行より27.3%引き上げた立方メートルあたり29.27レイ（1.50ドル）とすることを承認した。トランスニストリア地域の天然ガス料金は現行の同0.84レイ（0.043ドル）から1.28レイ（0.066ドル）へ値上げされる。
- 政府、国家成長戦略「欧州のモルドバ2030」承認**  
 23日、政府は生活の質を向上し経済成長を促進する国家成長戦略「欧州のモルドバ2030」を承認した。同戦略では、10の基本目標が定められており、1. 所得の増加と格差の縮小、2. 住宅事情の改善、3. 適切で質の高い教育の保証、4. 文化と自己啓発の水準の向上、5. 国民の心身の健康増進、6. 信頼できる包括的な社会保障制度の構築、7. 効果的で透明なガバナンスの確保、8. 公正かつ腐敗しない独立した司法制度の構築、9. 平和で安全な社会への貢献及び10. 健康で安全な環境の確保。  
 アウトプットは、年間GDP成長率平均5%、2030年における絶対貧困率10%（2016～21年同25.6%）、2030年のGDPにおける海外直接投資流入5%（2016～21年同平均2.1%）、2030年の年間輸出成長率平均14%（2016～21年同平均9.9%）、2030年の平均寿命72歳（2021年同69.1歳）、下水道普及率65%（2021年同33.2%）、2030年の総消費に占める再生可能エネルギーの割合35%、2030年の植林率16.3%（2020年同13.4%）等。
- 暖房費、キシノウ32%値上げ、バルツイ45%値上げ**  
 28日、国家エネルギー規制庁は10月1日より暖房費をキシノウでは32%引き上げのギガカロリーあたり2,854レイ（146.12ドル）、バルツイでは45%引き上げの3,052（156.26ドル）に値上げすることを承認した。
- 政府、緊急天然ガス貯蔵の創出を承認**  
 29日、政府は少なくとも22.8百万立方メートルの緊急天然ガス貯蔵の創出を承認した。国営エネルギー会社が管理をする。本貯蔵は緊急時のみ使用される。

#### 4. 経済協力

- IMF、現行プログラム下の27百万ドルの支払いを承認**  
 11日、IMF理事会は現行プログラムの第一回レビューを終え、27百万ドルのモルドバ国家予算への支払いが承認された。これにより、748百万ドルのうち242百万ドルが支払われたことになる。IMFは、ウクライナにおける戦争の困難な状況において、モルドバはプログラムをしっかりと行っていると述べ、10月末までに国立銀行修正法案等の他のコミットメントの実行の重要性を強調した。

- **ルーマニア、防衛能力強化に600千ドル支援**

22日、ルーマニア政府はモルドバ防衛及び関連した安全保障能力強化基金に600千ドルを提供すると決定した。

## **5. 対日関係**

- **片山大使、フルボバト村の始業式兼引き渡し式に参加**

1日、片山大使はフルボバト村小中高等学校の始業式に参加した。本式典では、草の根・人間の安全保障無償資金協力により実施された衛生環境改善の引き渡しも祝われた。

- **日本とモルドバ、環境分野で協力**

6日、片山大使はカンタラジウ環境大臣と二国間クレジット制度の協力覚書に署名した。両国は協力して温室効果ガス排出削減に取り組む。

- **谷合参議院議員一行の当地訪問**

14日、当地を訪問した谷合正明参議院議員を団長とする公明党視察団一行は、片山大使と共にミサイルニキティン内務省副大臣と会談した。（当館注：同視察団は、当地訪問中、内務省での会談の他、ヘフトールド労働・社会安全保障省副大臣との会談の他、日本のNGOであるピースウィンズジャパン及びAARの活動場所の視察も行った。）

- **日本政府支援により、緊急サービス庁が人道支援車両を受領**

14日、日本政府によるウクライナ及び周辺国への緊急人道支援に係るIOMへの出資通じて、緊急サービス庁はミニバス2台及び大規模発電機を搭載可能なトレーラー14台の総額23万7千ユーロとなる車両を受領した。引き渡し式には片山大使、ディアコメ内務省官房長官、オプリア緊急サービス庁長官及びバースIOMモルドバ事務所緊急事態調整官が出席した。

- **日本政府支援により、国立がん医療センターが医療機器及び医薬品を受領**

23日、日本政府によるウクライナ及び周辺国への緊急人道支援に係るIOMへの出資通じて、国立がん医療センターは医療機器及び医薬品23万ドル相当を受領した。

- **ガブリリツァ首相及びブディアンスキ財務相の訪日**

26日、ガブリリツァ首相とブディアンスキ財務相は、安部元総理の国葬出席のため訪日した。日本滞在中に、岸田総理、佐々木JETRO理事長、田中JICA理事長、佐藤経団連会ヨーロッパ地域委員会委員長、茂木経済同友会副代表幹事と会談した他、モルドバワインの日本国内への輸入業者とも面会を行った。